

小諸に

元気と誇りを

取りもどす！

新たな挑戦

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は、小諸市政の推進に格別なるご支援とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

私は、「小諸に元気と誇りを取りもどす」ことを念頭に、市政経営にあたるなかで、昨年を振り返りますと、その芽生えを感じるが増えてきたように思います。具体的な取り組みの一例を挙げますと、昨年12月にはコンパクトシティによるまちづくりの一つの核となる、浅間南麓こもろ医療センターが市役所隣接に開院しました。医療センター・市役所・市民交流センター・図書館との相乗により、市民の皆様による交流活動の拠点として、また中心市街地に新たな人の流れが生まれてくることに大きな期待をしています。続いて、「(一社)こもろ観光局」が、観光を手段とした豊かな地域づくりを使命に、昨年4月より営業を開始しました。多様な皆様が参画する「オール小



諸」の取組みにより、地域資源を活かした滞在プログラムを通じて、観光・交流人口の増加が期待されます。次に「浅間山麓高地トレーニングエリアの拠点化」について、昨年2月に小諸市

エリア高地トレーニング推進協議会が発足し、高峰高原を拠点としたアスリートのトレーニングや合宿受入れを本格的に開始しました。今後、この取組みから市民の皆様の健康づくり、生涯スポーツの推進にも活かしていきます。

さらに昨年は、若者や小諸の子どもたちが輝いた1年であったように思います。10月には、首都圏の大学生が小諸を舞台に制作した短編映画を発表する「こもろ映画祭」を開催しました。首都圏の学生の目に映る小諸は、そこに暮らす私たちのために魅力を伝えてくれる素晴らしいものでした。さらに「音楽のまち・こもろ作曲コンクール」を初めて開催しました。応募作品の中から、小学校3年生の作品「あかるい1日」が最優秀賞を獲得し、この1月

1日より夕方5時のサインメロディとして市内に流れます。今後も、この取組みなどを通じて、「音楽のまち 小諸」を実現して参りたいと考えています。

さて、日本は今、人口減少などの大きな困難に直面しています。多くの自治体が克服のために知恵を絞る中、小諸には、「恵まれた自然環境」「伝統や文化」「人々の絆」といった、かけがえのない「お宝」があります。いま必要なのは、「無いことを嘆く」のではなく、「お宝」を掘り起し、それを再認識し磨き上げていく「有るものを活かす」という発想の転換であります。それを市民の皆様一人ひとりが共有し、力を結集しながら取り組んでいくことの積み重ねが、「小諸に元気と誇りを取りもどす」ことであり、ひいては小諸市がめざす将来像「住みたい、行きたい、帰ってきたい まち 小諸」の実現に繋がるものと確信しています。誠に粘り強く、時には果敢に挑戦をしながら、全力を尽くして参ります。

小諸市長 小泉 俊博

一步、踏み出す

結びに、市民の皆様のご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げますとともに、市政に対するなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。